

# 東日本大震災に対する 日本天文学会の当面の対応

日本天文学会理事長 岡村定矩

去る 2011 年 3 月 11 日午後に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波、さらにその影響による東京電力福島原子力発電所の事故は、わが国に未曾有の国家的大災害をもたらしました。災害で亡くなられた多数の皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災され不自由な生活を余儀なくされている方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、困難な状況のなか、被災者支援、災害復旧などに全力であたっておられる方々に敬意を表します。今後長期にわたると予想される被災からの復興に、日本天文学会としてもできる限りの協力をしたいと考えています。

## 1. 春季年会中止までの経緯

開催予定だった筑波大学の被害が大きいことが予想されたことから、地震発生直後の 3 月 11 日夜から、理事の個人レベルでの情報交換を始めました。翌 12 日午前 8 時 20 分、筑波大学の梅村雅之年会開催地理事と連絡が取れ、年会は予定どおりの開催を目指す中止も視野に入れる必要があることを理事会として認識し、10 時 24 分に「年会中止の可能性がある」との第 1 報を tennet とホームページでアナウンスして、以後広汎な被災地域からの情報収集に努めました。19 時頃から、得られた情報に基づき理事会で開催か延期か中止かをメールで議論し、13 日午前 0 時 16 分、その結果をまとめて評議員会の意見を伺うためのメールを発信しました。13 日昼頃までに過半数の評議員から「中止が妥当」とのご意見をいただき、理事会として年会中止を決定、13 時 23 分に ten-

net とホームページに掲載しました。同日 19 時 56 分には開催地理事からホテルのキャンセルに関する連絡を tennet に流し、23 時 33 分には年会実行委員会から講演予定者全員に個別にメールで開催中止を連絡しました。実行委員会はこの後、年会中止に伴う各方面とのさまざまな対応を速やかに行いました。

言うまでもなく、年会は学会の最大の行事であり、その準備には年会理事、年会開催地理事をはじめとして年会実行委員会、開催地の関係者、年会に附随する各種企画や保育室などの支援に携わる方々、そしてもちろん学会事務所も総力を挙げて取り組んできました。その開催を目前にして、自然災害とはいえ中止を余儀なくされたことは誠に残念なことで、関係する多くの方々にも結果としてたいへんなご迷惑をおかけすることとなりました。関係者のこれまでのご努力に厚くお礼を申し上げるとともに、諸般の事情をご賢察の上、中止に至ったことをご了解いただきたいと思います。

年会後の 3 月 20 日に予定されていた公開講演会は、開催地理事と直前まで開催の可能性を追求しましたが、会場の被害が予想以上に大きく復旧が予定より遅れること、原発事故の影響などの事情を勘案し、これも残念ながら中止と決定しました。3 月 15 日に予定していた記者発表は、適切な時期を見て後日行うこととしました。また通常、春季年会の総会時に行っている各賞の授賞式、および受賞記念講演は次回の年会で行うこととしました。

## 2. 総会、理事会、評議員会の開催

筑波大学の春季年会の折りに開催する予定だった総会、理事会、および評議員会は、定款の定めもあり予定どおり3月17日に開催する必要がありました。しかし会場に予定していた筑波大学は地震の被害を受けており、交通機関も乱れていたため同地での開催は不可能だったため、急遽三鷹市の国立天文台に会場を変更しました。いずれにせよ、通常の年会時の総会のように多くの会員が参加するのは難しいことから、理事会では、事前投票はがきあるいは委任状の活用を会員に呼びかけました。当日は、総会に先立って10時から12時に国立天文台中央棟大会議室で理事会を行いました。交通機関の混乱により、理事2名はテレビ会議で参加しました(図1)。事前の3月14日午後に国立天文台で緊急の理事懇談会を開催し当面の対応について議論したことを踏まえ、ここで理事会としての当面の対応の大筋を決定しました。

国立天文台三鷹地区では12時20分から16時まで、東京電力の計画停電が予定されていました。このため、総会は停電の中でも開催できるよう、窓の広いすばる棟大セミナー室を会場としました。停電のなか、14時50分から出席者の名簿確認など総会の準備が行われました。大震災による混乱のなか、会場参加者は国立天文台関係者と在京の会員を中心とする38名でしたが、事前投票と委任状を合わせて414名の参加があり、定足数を満たして総会は成立しました(図2)。実際には総会開始数分後に復電したので、総会会場での停電の影響はほとんどありませんでした。

総会では、議事に先立ち、今回の大震災で被災された方々へのお見舞いを理事長として岡村が述べた後、筑波大学における春季年会を中止せざるをえなかったことを報告しました。つづいて、各賞の受賞者リストの紹介、第1号議案(2010年度事業報告書案)および第2号議案(2010年度決算報告書案)の審議を行い、賛成多数で承認されま



図1 テレビ会議を使った理事会。



図2 停電の中で開始された総会。

した。議事終了後には、IAU関連や学会の学生支援に対する方針の再検討、2年半後に迫った法人移行に際しての諸課題、特に現状と大きく変わる総会および評議員会について報告を行いました。

総会終了後、再び会場を中央棟大会議室に移して16時から17時50分まで評議員会が行われました。この日は、日本天文学会にとって、まさに異例づくめの長い一日となりました。

## 3. 当面の対応

### 3.1 年会発表の取扱いについて

春季年会の中止に伴い、年会会場でのプレゼンテーションはできませんでした。しかし、講演内容を記述した講演予稿集は2月20日に発売・頒布されており、研究業績として有効であると判断し、年会での発表が成立したと見なします。発表の引用は、「2011年日本天文学会春季年会予稿集〇〇〇」のようにしてください。ただしこの結果、

これ以降の年会で同一の発表を行うことは認められません。

年会の発表は、講演予稿集の記述と年会会場でのプレゼンテーション（口頭、口頭+ポスター、ポスター）を合わせて成立するというのが一般的な理解ですが、今回は特例措置となります。

### 3.2 講演予稿集の販売

春季年会の中止を受けて、講演予稿集については、従来適用していた年会終了後の割引販売価格1,000円をすべての販売形態に適用します。なお、事前支払いで購入していただいている方には、1,000円の返金処理を行います。年会が中止となったので、この講演予稿集は講演の記録を残す貴重な資料となります。年会会場での販売ができなくなったので、希望者にはメール便を利用して販売します。この際の送料と振替手数料は学会で負担しますので、購入希望者は、部数、宛名、送り先住所を [jimu@asj.or.jp](mailto:jimu@asj.or.jp) までお送りください。個人でも受け付けますが、研究室あるいは機関単位で必要部数を取りまとめていただければたいへんありがたいです。

### 3.3 東日本大震災の被災者への支援

(1) 大きな災害に際してこれまで学会として行ってきた「年会費1年分免除」の被災者支援措置をとります。過去の例に比べると今回の被災地域は格段に広く、被災の状況も多様ですので、深刻な被災をした方を漏れなくカバーできるよう、

対象者の基準は本稿執筆時点で確定することなく、もう少し時間をかけて慎重に検討します。なお、対象者ですでに2011年度年会費を納入済みの人には、返金ではなく2012年度の会費を免除します。自分が対象となると思われるものの、まだ納入していない方は天文学会事務所にその旨連絡してください。

(2) 上記の事情および金融機関も混乱したことに鑑み、2011年度分の年会費の納入期限を延長し4月22日までとします。ただし、これは被災者、およびその関係者の便宜を図るための措置ですので、災害とかかわりない会員で未納の方は、早急に納付してください。

(3) さらに、上記(1)と(2)を超える支援についても今後検討します。

### 3.4 秋季年会について

2011年度秋季年会の開催予定地であった東北大学および仙台市近辺は地震と津波による甚大な被害を被っており、現段階では秋季年会を東北大学で開催できるかどうかは定かではありません。しかし春季年会が中止となった今、秋季年会は是非とも開催しなければなりません。理事会としては、東北大学で開催できない場合、代替として開催の可能性を国内複数大学に対して非公式に打診していて、いずれも前向きな返答をいただいています。また、春季年会中止を受けて、秋季年会は4日間の開催を検討しています。